



オカムラ食品工業

2026年6月期 第2四半期

決算補足説明資料

2026年2月13日

株式会社オカムラ食品工業（2938）



- I. 2026年6月期 第2四半期実績
- II. 「中期経営目標2030」の進捗状況
- III. 2026年6月期 通期計画
- IV. 参考資料

I . 2026年6月期 第2四半期実績



■ Q2実績ハイライト

- ・ Q2実績サマリー
- ・ 成長のためのKPI
- ・ 連結業績サマリー

■ セグメント別の増減・要因分析

- ・ セグメント情報サマリー
- ・ セグメント別売上高増減
- ・ セグメント別営業利益増減
- ・ 要因別セグメント利益増減（養殖事業）
- ・ 要因別セグメント利益増減（国内加工事業）
- ・ 要因別セグメント利益増減（海外加工事業）
- ・ 要因別セグメント利益増減（海外卸売事業）

■ 財務の要点（BS／CF）

- ・ 貸借対照表 増減サマリー
- ・ 連結キャッシュフロー計算書サマリー

Q2実績サマリー

成長のためのKPI

国内養殖量

2026年水揚げ計画4,300トン(前年比824トン増)

- 現在は、2026年4月～7月の水揚げに向けて養殖中。
昨年末の馴致*も予定通り完了。

*じゅんち。陸上養殖から海面養殖への移行。

海外卸売事業売上高Q2売上**65.6億円** (予算進捗率50.6%)

- 通期売上計画は129億円。
現時点においては、概ね計画通り。

Q2業績

連結売上高前年同期比 **+16.9億円**

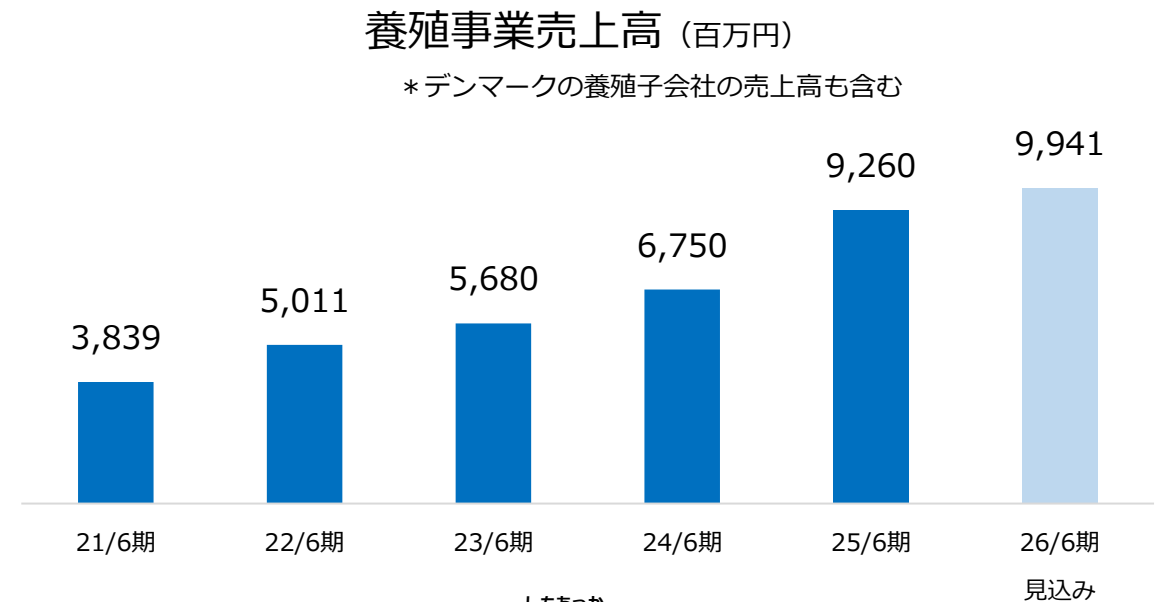
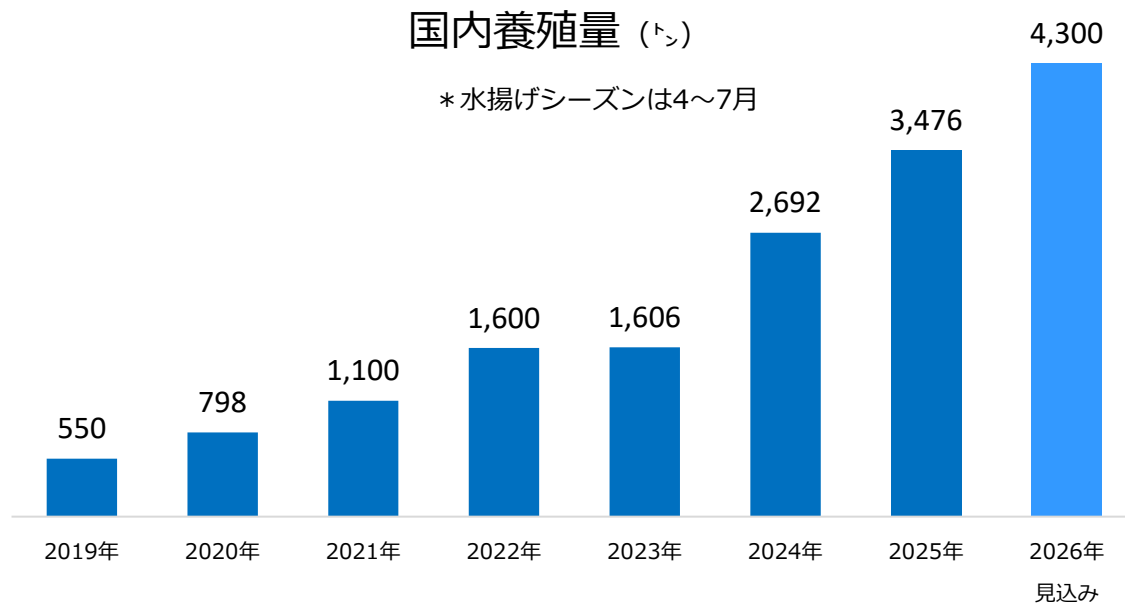
- 連結売上高は前年同期比+16.9億円/+9.9%の187.7億円
- 海外加工事業において値上げに起因した販売量減少があったものの、国内加工事業の主力製品いくら製品が想定を上回る販売単価で推移し販売額も増加するなど、全体としては概ね順調

連結営業利益前年同期比 **+3.4億円**

- 連結営業利益は前年同期比+3.4億円/+20.4%の20.3億円
- 事業拡大に向けた人員増による人件費の増加、製品在庫増加に伴う保管料増加などの販売管理費増を、売上増加に伴う利益増で吸収し増益

成長のためのKPI (1) 国内養殖量の拡大

当社グループの成長ドライバーの一つ国内養殖量の拡大は、2026年シーズン(2026年4～7月水揚げ)の国内養殖量は4,300^{じゅんち}トン(2025年シーズン比+800^{じゅんち}トン)を計画。昨年末の馴致(陸上養殖から海面養殖への移行)も予定通り完了。

中間養殖
キャパシティの
主な増加要因

- 漁業協同組合との協働による中間魚育成
- 養殖技術の向上による養殖効率の向上

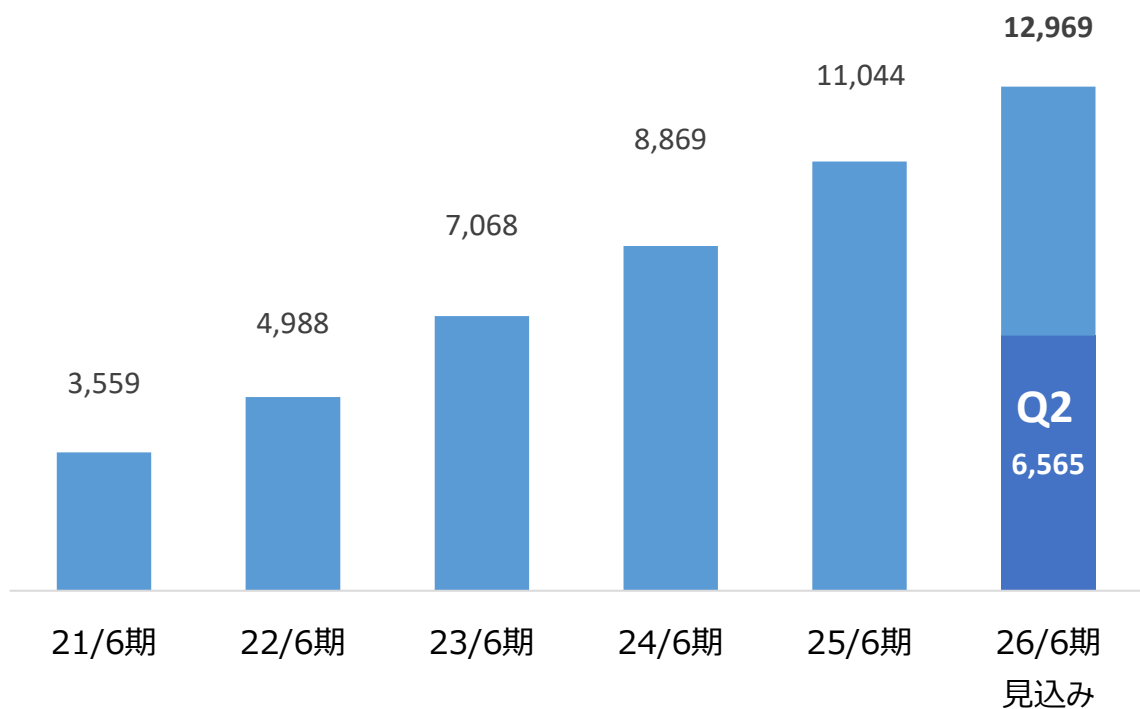
しもあつか
○下安家 さけ・ます ふ化場

震災や豪雨災害後に、国、岩手県、野田村等の支援で復旧、最近は従来のさけ・ます放流事業に加え、当社グループとの協働によるサーモントラウト養殖にも進出。昨年末に種苗85^{じゅんち}トンの種苗生産完了。

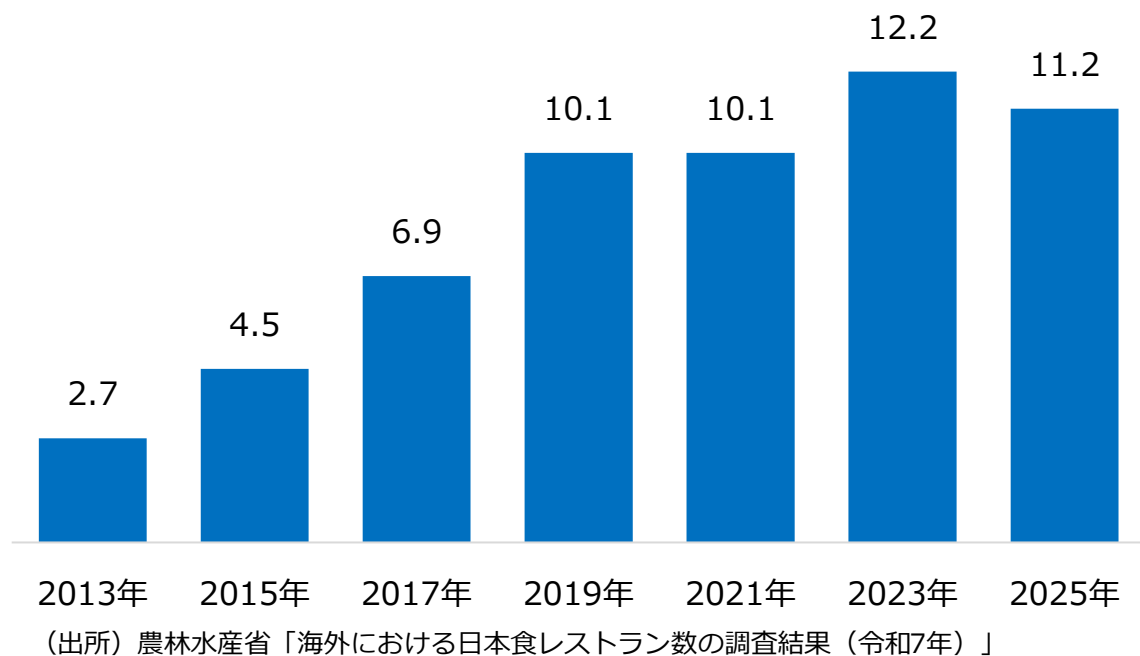
成長のためのKPI (2) 海外卸売事業売上の拡大

もう一つの成長ドライバーである海外卸売事業は、アジアにおける日本食市場の拡大を背景に拡大してきた。当Q2時点の売上高は6,565百万円(前年同期比+1,180百万円/+21.9%増 *為替換算影響含む)、計画進捗50.6%と順調に推移。

海外卸売事業売上高 (百万円)



アジアにおける日本食レストランの概数 (万店)



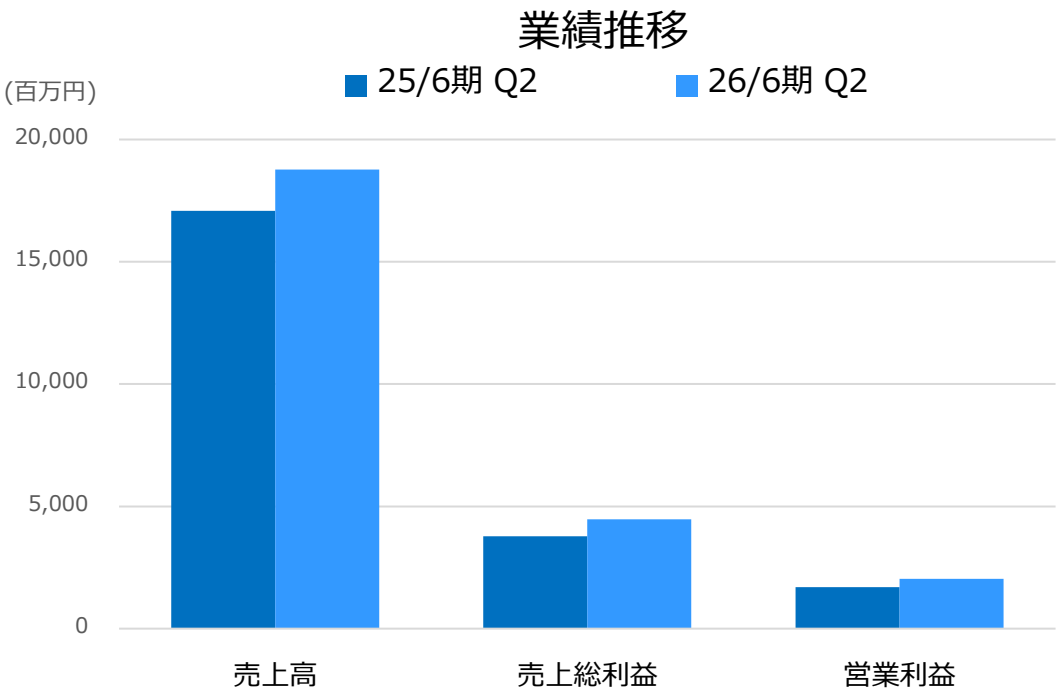
昨年11月公表の2025年概数は、前回比 約1割減となっている。これは最大市場の中国(本土)が経済停滞などにより-19%となった影響が大きく、**当社進出国の伸長率は+4%(総店数は約2万店)と継続拡大。**

連結業績サマリー①

売上高は前年同期比+16.9億円、営業利益は売上増加に伴う利益増で人件費増/在庫増加に伴う保管料増加等を吸収し 同+3.4億円と増収増益。経常利益は同+5.6億円(内、外貨建債権の為替換算損益が同+3.4億円*)。

*当期は差益2.1億円、前期は差損1.3億円で差異+3.4億円

(単位：百万円)	25/6期Q2 実績	26/6期Q2 実績	増減額	増減率 (%)
売上高	17,084	18,776	+1,691	+9.9%
売上総利益	3,781	4,474	+693	+18.3%
営業利益	1,692	2,037	+345	+20.4%
経常利益	1,634	2,201	+566	+34.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,114	1,445	+330	+29.6%

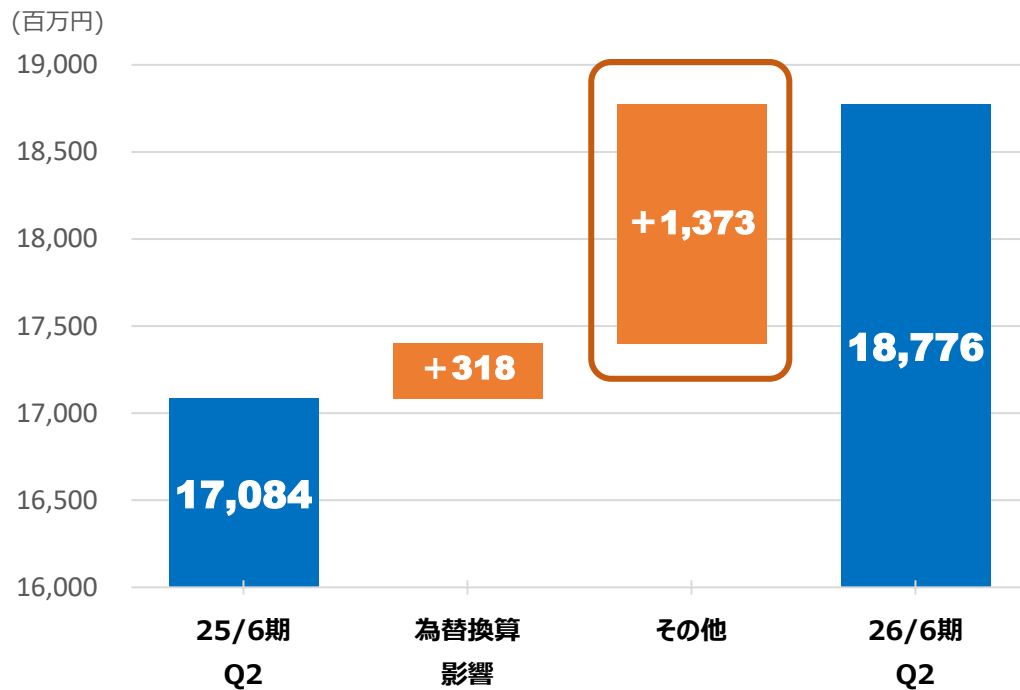


連結業績サマリー②

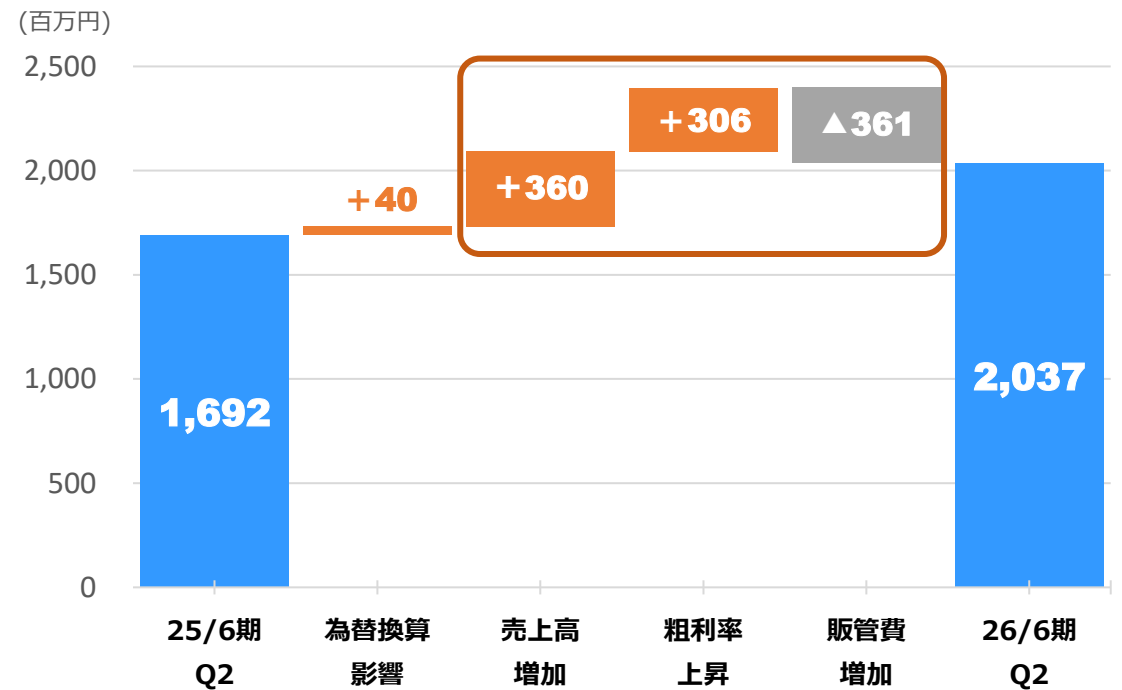
売上高は、為替換算影響を除いて**+13.7億円**。

営業利益は、売上増による利益増、利益率の高い国内加工事業の構成比増による粗利率上昇により、人員増に伴う人件費増等の販管費増加要因をカバーし、為替換算影響を除いて**+3.0億円**。

連結売上高 増減要因



営業利益 増減要因



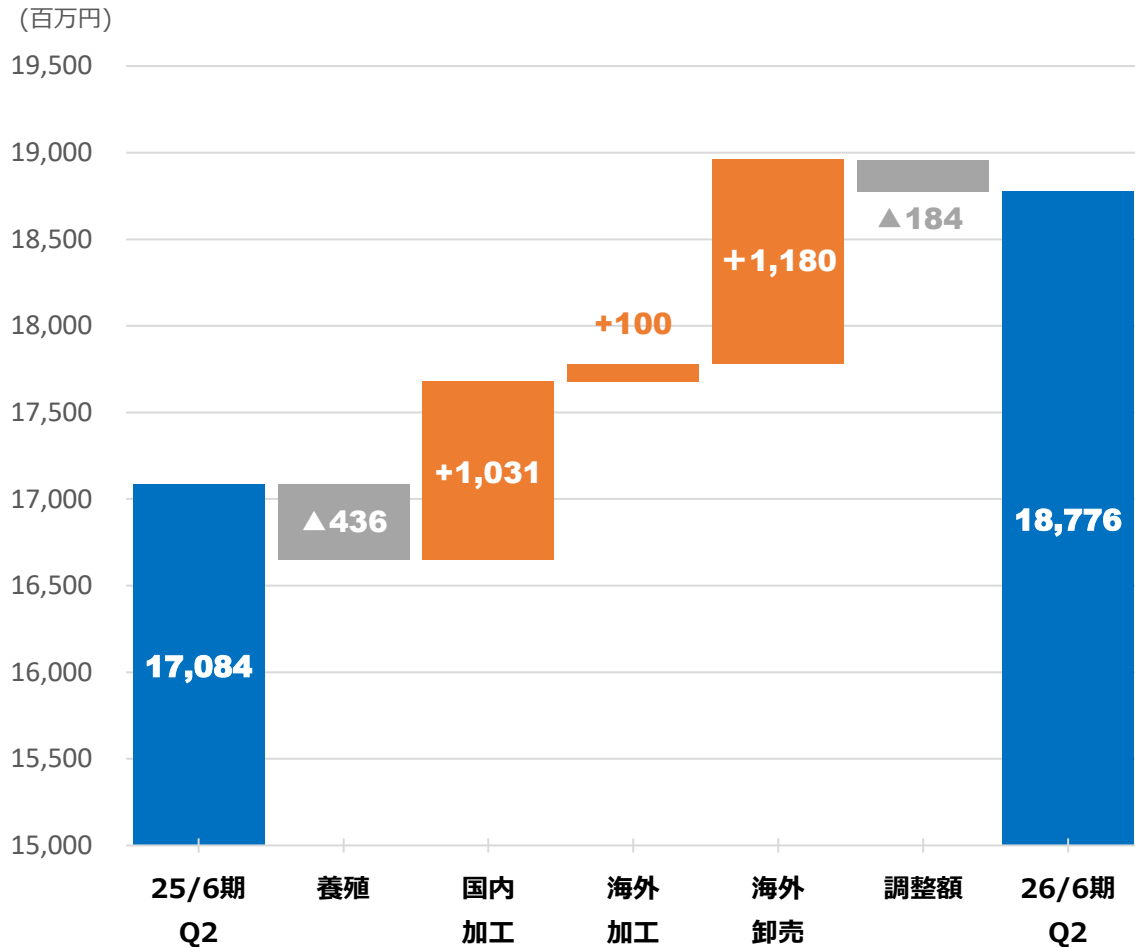
セグメント情報サマリー

(単位：百万円)

		25/6期Q2	26/6期Q2	前年同期比	前年同期比 増減率(%)	増減の内訳		
						為替差	実質	増減率(%)
売上高		17,084	18,776	+1,691	+9.9	318	+1,373	+8.0
	養殖	2,477	2,041	△ 436	△ 17.6	84	△ 520	△ 21.0
	国内加工	5,691	6,723	+1,031	+18.1	—	+1,031	+18.1
	海外加工	7,319	7,419	+100	+1.4	0	+99	+1.4
	海外卸売	5,385	6,565	+1,180	+21.9	233	+946	+17.6
	調整額	△ 3,790	△ 3,974	△ 184	—	—	△ 184	—
セグメント利益		1,692	2,037	+345	+20.4	40	+305	18.0
	養殖	475	429	△ 45	△ 9.6	31	△ 77	△ 16.2
	国内加工	784	1,363	+579	+73.8	—	+579	+73.8
	海外加工	579	412	△ 167	△ 28.9	△ 2	△ 164	△ 28.4
	海外卸売	267	397	+130	+48.8	11	+118	+44.5
	調整額	△ 414	△ 566	△ 151	—	—	△ 151	—

セグメント別売上高増減

セグメント別売上高増減



増減補足説明

養殖

前期比△436

- 国内養殖では加工用の冷凍販売数量減により売上減
- 海外養殖では相場影響から販売価格低下により売上減

国内加工

前期比+1,031

- 製品価格上昇に伴う値上げの実施と、他社との比較で一定の在庫を確保していたことによる販売数量増に伴う売上増

海外加工

前期比+100

- 原料価格上昇に伴う値上げにより販売数量減も、海外卸売事業向け販売が増加し微増

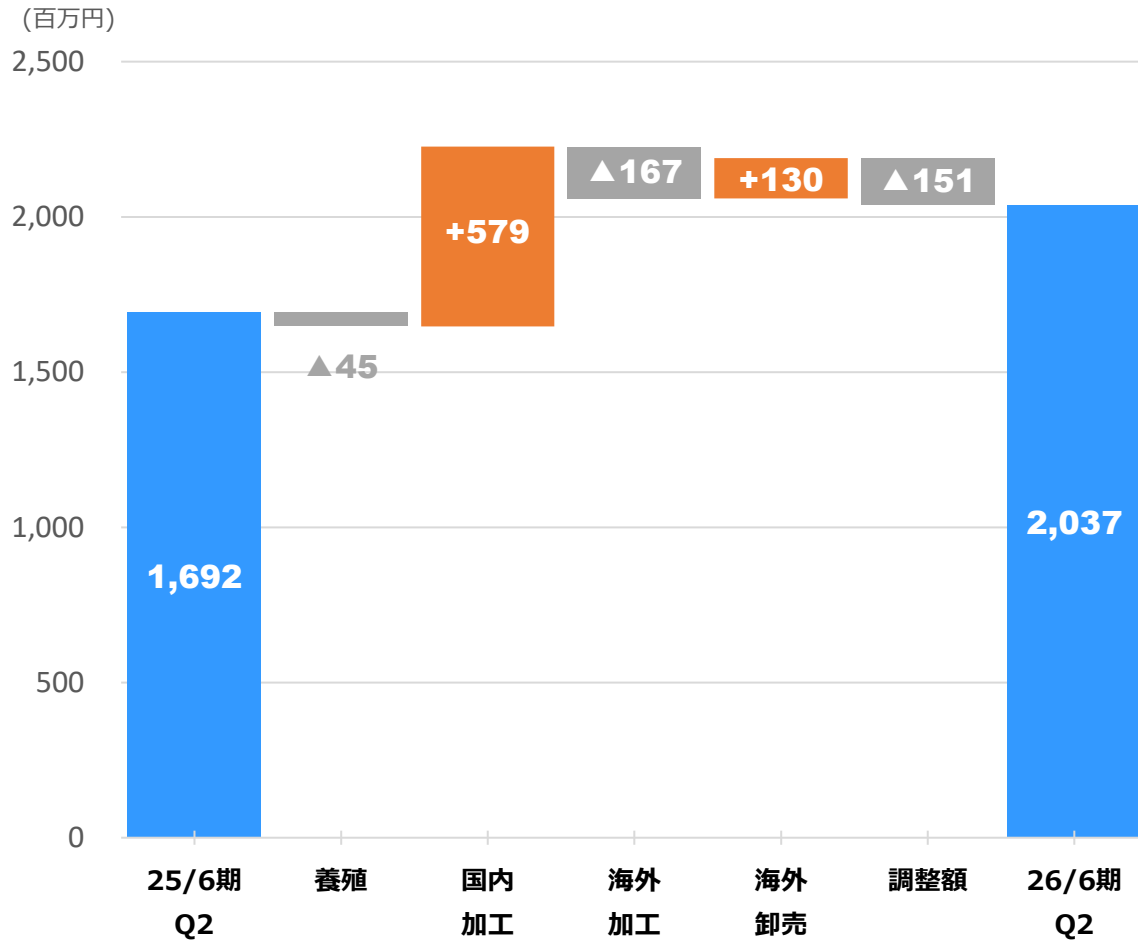
海外卸売

前期比+1,180

- 進出エリアの日本食レストラン店数増が継続するなど市場環境は良好。従来の売上増加傾向が継続

セグメント別営業利益増減

セグメント別営業利益増減



増減補足説明

養殖

前期比△45

- 国内養殖は単価上昇による粗利率好転があるが微減。
- 海外養殖は販売価格低下影響のため微減。

国内加工

前期比+579

- 売上増に加え、すじこと比較して粗利率の高いいくら商材の販売割合増加による粗利増加の影響。

海外加工

前期比△167

- 売上減と原料価格上昇による粗利率低下 及び 人件費等販管費増加の影響

海外卸売

前期比+130

- 売上増の影響に加え、タイ子会社の利益改善等により利益増加。

調整額

前期比△151

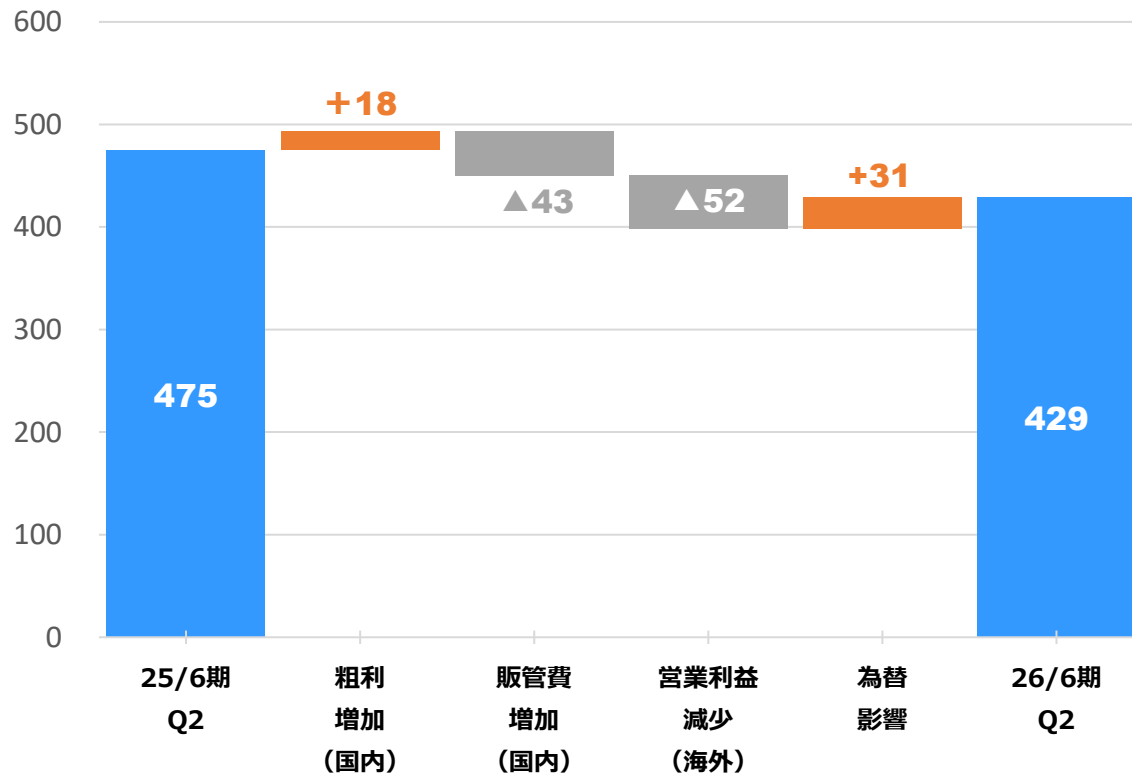
- 主に連結上の在庫未実現損益の増減。

要因別セグメント利益増減（養殖事業）

国内養殖の規模拡大に伴うコストメリット、販売単価増加も、海外養殖においていくら加工の生産調整による一時的な原価増及び人件費等の増加の影響を受け、全体としてはセグメント利益微減。

セグメント利益増減

(百万円)



増減補足説明

粗利増加（国内）による影響

前期比+18

- 販売単価の上昇と規模拡大によるコストメリットにより製造原価は低下したものの、加工用原料としての販売額が減少したため微増。

販管費増加（国内）による影響

前期比△43

- 事業規模拡大に伴う増加(保管料、販売手数料、管理費等)。

営業利益減少（海外）による影響

前期比△52

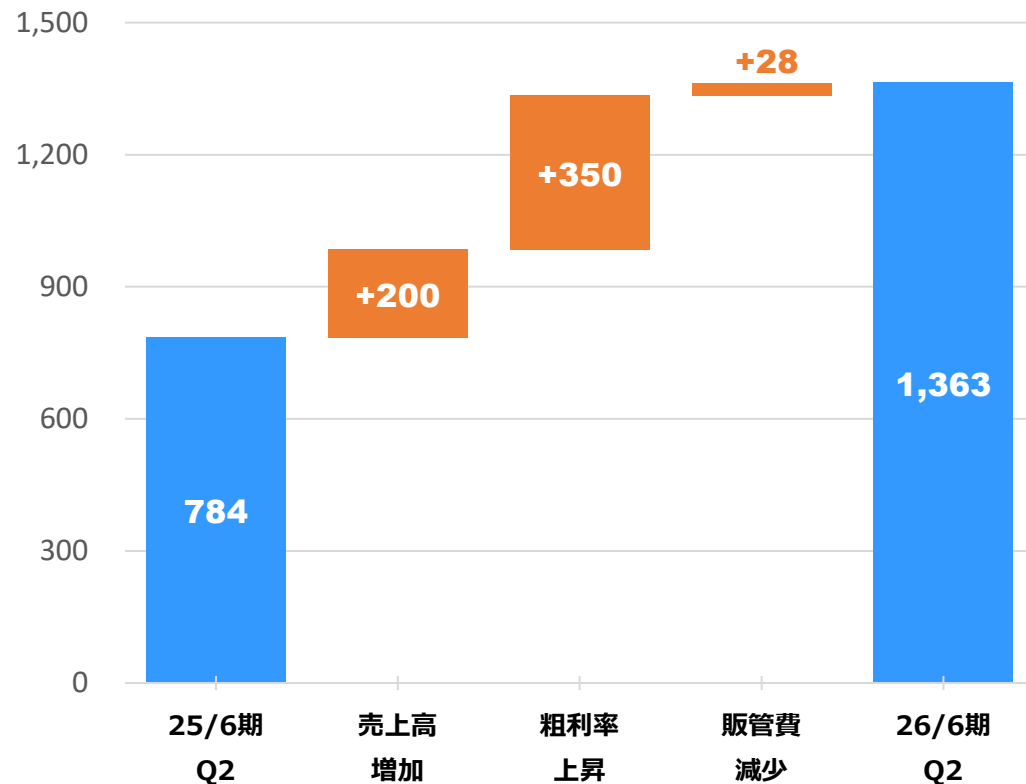
- 相場影響から販売単価低下等により販売額が減少したことに伴う利益減 及び 人員採用に伴う人件費等の増加の影響。

要因別セグメント利益増減（国内加工事業）

北海道の秋鮭不漁等の影響による国内原料不足により、販売価格相場上昇、一定の在庫を保有する当社製品の売上は順調に推移し、契約更新による単価見直しやいくら製品の販売割合が増えセグメント利益増。

セグメント利益増減

(百万円)



増減補足説明

売上高増加による影響

前期比+200

- 国内原料不足により販売価格相場が上昇、契約単価の見直しも順次進み、他社との比較で一定の在庫を確保していた当社のいくらの販売が伸びて売上増加

粗利率上昇による影響

前期比+350

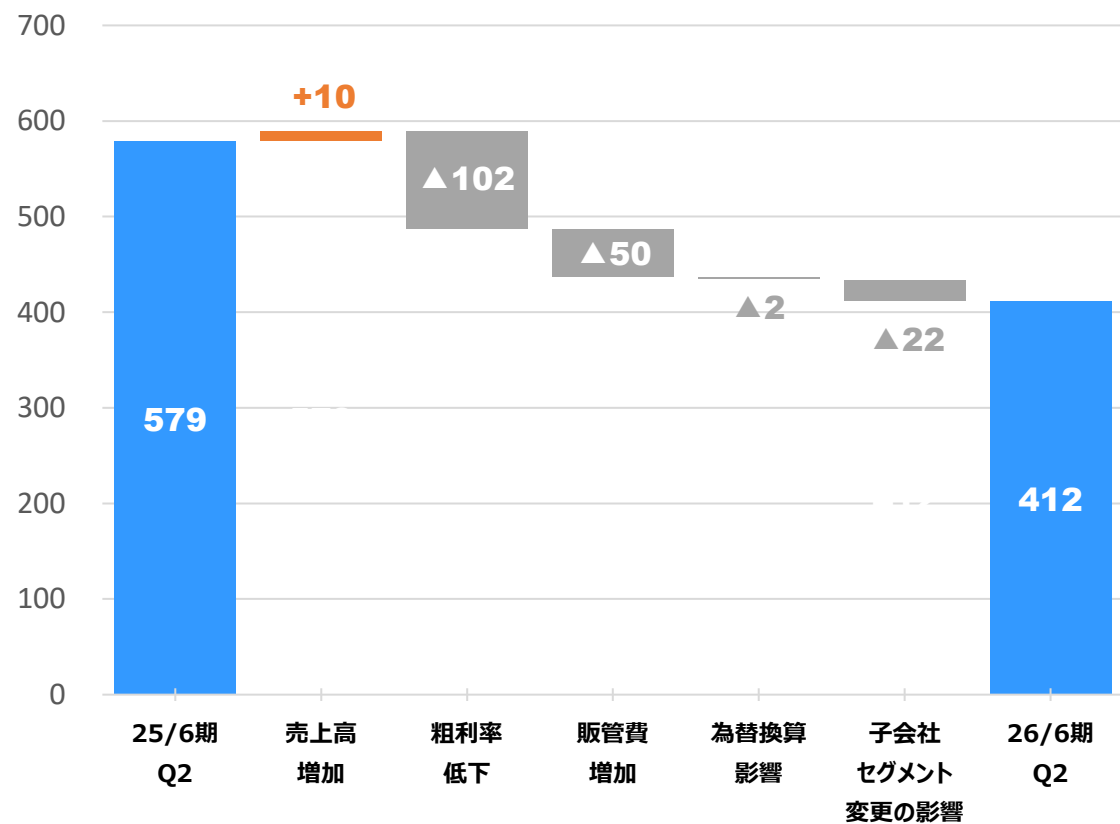
- 契約単価見直しや販売量増加による売上増と、すじこ製品と比較して利益率の高いいくら製品の販売割合が増えたことによる粗利率改善

要因別セグメント利益増減（海外加工事業）

サーモンハラス原料の不足は継続。為替や仕入相場の影響を受け、ハラス含めた原料価格上昇に対して価格転嫁が追い付かず粗利率低下、従業員数増加等によりセグメント利益減。

セグメント利益増減

(百万円)



増減補足説明

売上高増加による影響

前期比+10

- ハラス等の原料価格上昇に伴う値上げにより販売数量減も、海外卸売事業向け製品販売が伸び、売上高は微増。

粗利率低下による影響

前期比△102

- ハラス等の原料価格上昇により値上げも価格転嫁が追い付かず粗利率低下。

販管費増加による影響

前期比△50

- 事業拡大に伴う従業員数の増加による人件費増加等の影響

セグメント変更の影響

前期比△22

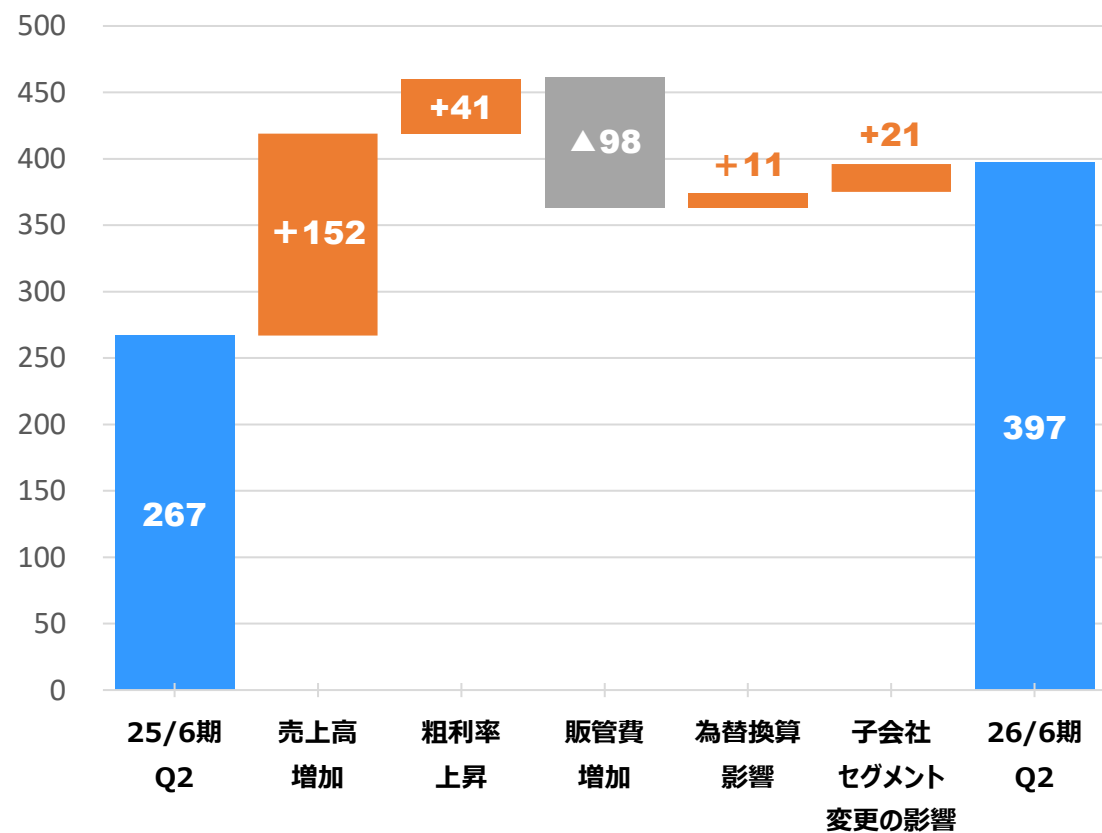
- ベトナム子会社の海外卸売事業開始に伴うセグメント変更の影響(年間では約△50)を想定

要因別セグメント利益増減（海外卸売事業）

市場拡大を背景にこれまでの増収トレンドが継続、売上高増が販管費増を吸収、セグメント利益増。

セグメント利益増減

(百万円)



増減補足説明

売上高増加による影響

前期比+152

- アジアの日本食マーケットの拡大傾向は継続しており、これを背景に当事業の売上高も増加。利益額を押し上げる要因となっている。

粗利率上昇による影響

前期比+41

- タイ子会社の事業拡大に伴う利益改善により粗利率は上昇。

販管費増加による影響

前期比△98

- 事業拡大による費用増加。販管費投資が一巡したことで、当期の販管費率は正常化。

連結貸借対照表 増減サマリー

(単位：百万円)

資 産	2025年6月末	2025年12月末	増減
流動資産	30,327	49,871	+ 19,544
現金及び預金	4,416	6,096	+ 1,680
売上債権等	4,599	5,507	+ 908
棚卸資産	17,378	33,394	+ 16,016
その他	3,934	4,874	+ 940
固定資産	10,944	11,917	+ 973
有形固定資産	10,104	10,977	+ 873
無形固定資産	259	322	+ 63
投資その他の資産	580	617	+ 37
資産合計	41,271	61,788	+ 20,517

負 債	2025年6月末	2025年12月末	増減
流動負債	20,036	38,305	+ 18,269
仕入債務	1,823	1,935	+ 112
借入金	12,651	30,728	+ 18,077
その他	5,562	5,642	+ 80
固定負債	5,191	5,417	+ 226
借入金	3,388	3,429	+ 41
その他	1,803	1,988	+ 185
負債合計	25,228	43,722	+ 18,494
純 資 産			
純資産合計	16,043	18,065	+ 2,022

- 棚卸資産の増加：原料の豊漁年に対応した国内加工事業における魚卵仕入と養殖事業の仕掛（養殖中のサーモントラウト）在庫の増加など
- 設備投資の進捗：主に養殖事業に関する設備投資
- 借入金の増加：国内加工事業向けの原料仕入のために借入増加（運転資金目的）

連結キャッシュ・フロー計算書サマリー

(単位：百万円)	2026年6月期 上期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△14,417
税金等調整前当期純利益	2,222
減価償却費	735
棚卸資産の増減額	△15,519
その他	△1,855
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,741
有形固定資産の取得による支出	△1,282
その他	△458
財務活動によるキャッシュ・フロー	17,782
長短借入金の増減	18,068
その他	△286
現金及び現金同等物に係る換算差額	55
現金及び現金同等物の増減額	1,680

補足説明

営業活動によるキャッシュ・フロー △14,417

- ・ 利益は順調に計上。
- ・ 魚卵原材料の豊漁期にあたるため、仕入量が増加したことにより、棚卸資産が前期に比べて増加。

投資活動によるキャッシュ・フロー △1,741

- ・ 養殖事業拡大のためには養殖設備への先行投資が必要であり、当社では養殖量拡大に向けて養殖設備への投資を継続的に実施している。
- ・ 当期は大規模な中間養殖場投資はなかったものの、国内外で養殖関連設備への投資を継続。

Ⅱ. 「中期経営目標2030」の進捗状況



■ 国内養殖キャパシティの拡大に向けた取組

- ① 中間養殖場の建設状況
- ② 新バージ船の建設開始
- ③ さけ・ます ふ化場の活用の取り組み加速化

■ 海外卸売事業の拡大に向けた取組


- ・ オフィス移転、生産施設新設などの基盤整備を推進中

■ その他トピックス

- ・ 海外養殖量の拡大に向けた取組

国内養殖量の拡大に向けた取組 ① 中間養殖場の建設状況

中間養殖場の建設は計画通り進捗。泊川中間養殖場は27/6期に、第2今別中間養殖場は28/6期に順次水揚げ寄与予定。
青森県および北海道南工リアでも中間養殖場新設に向け、自治体との協議は継続して進行中。

現在進行中の中間養殖場新設状況		
	泊川中間養殖場 (秋田県八峰町)	第2今別中間養殖場 (青森県今別町)
想定成魚 生産量	約1,000トン	約1,000トン
進捗状況	建設工事は計画通り  (2025年11月撮影)	井水第一号 掘削中  (2025年 5月撮影)
水揚げ寄与 見込	2027年6月期 (変更なし)	(遅くとも)2028年6月期 (変更なし)

左記のほか、青森県および北海道道南工リアでの中間養殖場新設を想定し、複数箇所候補地選定を進行中(自治体協議、地質調査、ボーリング調査等)。



国内養殖量の拡大に向けた取組 ②新バージ船の建造開始

給餌効率の安定化に向け、新バージ船を建造中（2025年10月発注、2025年12月ベトナムにて造船開始）。
（予定） 2026年夏に完成 → 2026年秋に日本着 → 2026年末から稼働。
三厩海域向けに大型化し、将来の生産量拡大に備える。

＜参考＞ 導入済・新規バージ船の比較		
	導入済バージ船	新規バージ船
導入地区	今別海域	三厩海域
餌積載量	240トン	300トン
水揚寄与見込	稼働中	2027年6月期（予定）
新規バージ船の主な強化点	<ul style="list-style-type: none">塩害対策・電子設備の気密性を強化餌保管サイロ数増設により供給可能な生簀チャンネル数を拡大将来の海面養殖場の拡張を見据え、餌積載量を240トン→300トンに大型化	



参考：バージ船イメージ ※実際の新設バージ船とは異なります



三厩海域（青森県）

国内養殖量の拡大に向けた取組 ③さけ・ます ふ化場の活用の取り組み加速化

岩手県 ^{しもあつか}下安家さけ・ます ふ化場での取り組みは順調に進捗し、2025年末に種苗(稚魚)生産85トンを実現(当初想定50トン)。

2026年1月より、岩手県 ^{あけどかわ}田野畑村 明戸川さけ・ます ふ化場での利用開始に向けた協議を開始。

岩手県 下安家 さけ・ます ふ化場

- 発眼卵を仕入れ、種苗(稚魚)に育成を開始
- 2025年末種苗生産：85トン
(当初想定50トン 達成率170%)



<発眼卵>



<種苗>



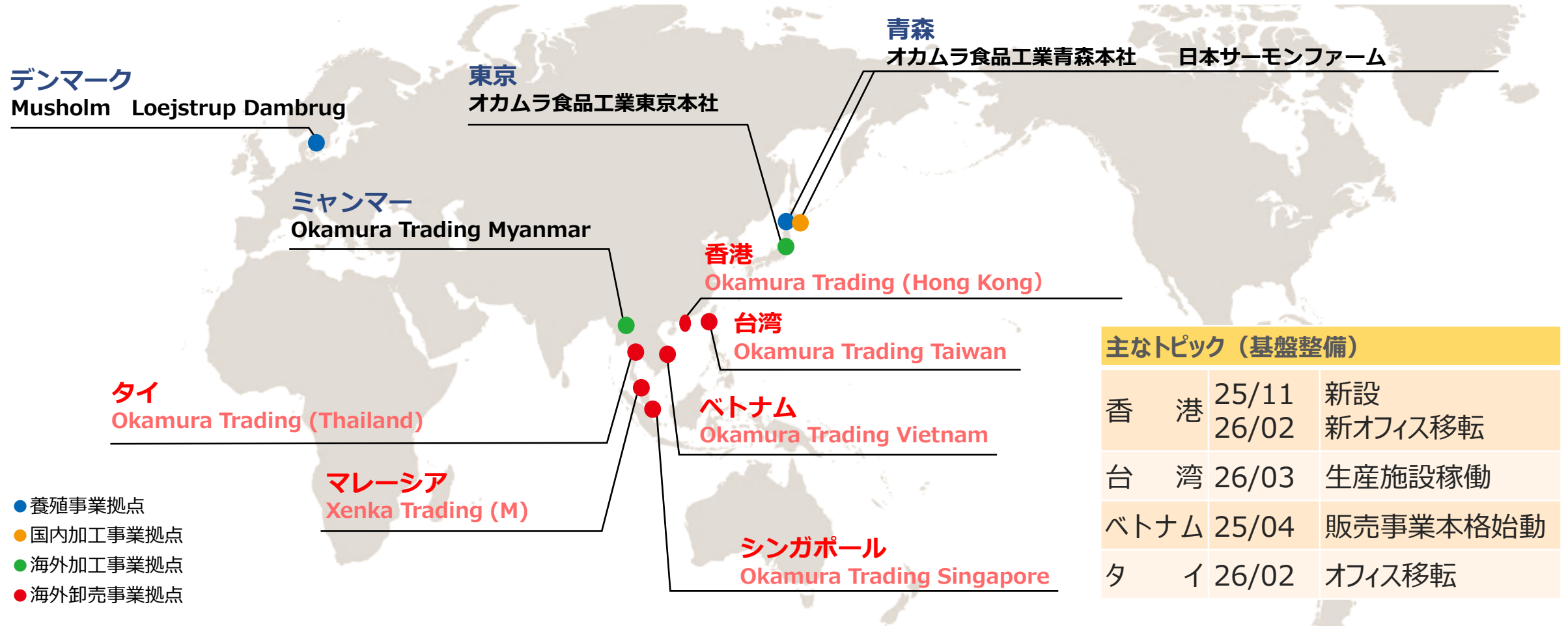
岩手県 明戸川 さけ・ます ふ化場

- 2026年1月：田野畑村役場と協議開始
- 利用開始に向け準備



海外卸売事業の拡大に向けた取組

海外卸売事業は、現在6地域で展開（シンガポール、マレーシア、台湾、タイ、ベトナム、香港）
事業拡大に向け、オフィス移転、生産施設新設等の基盤整備を推進



その他トピックス：海外養殖量の拡大に向けた取組

デンマーク子会社で、養殖量の拡大に向けて中間養殖場を新規取得。27/6期の水揚げ寄与を見込む。

取得した中間養殖点（デンマーク）

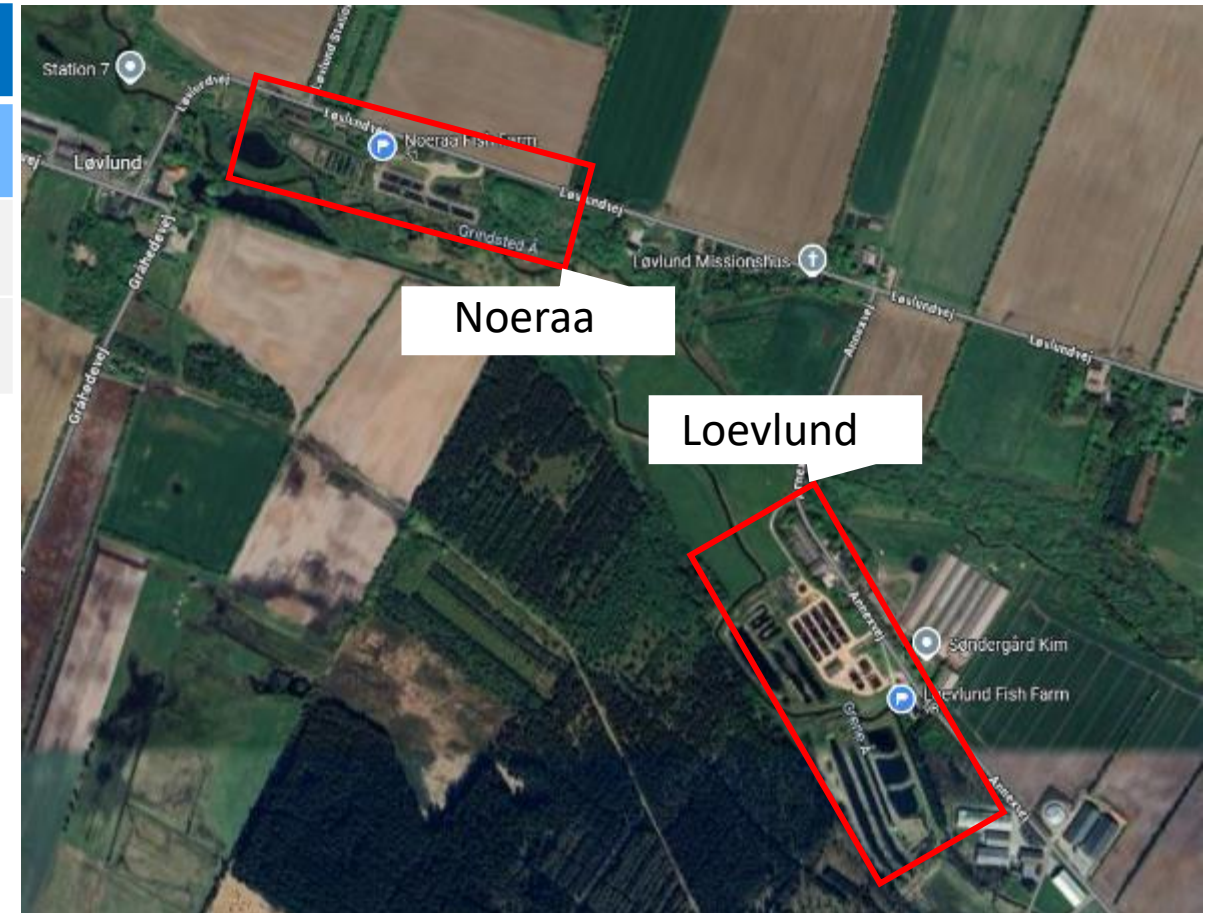
Loevlund

- 想定成魚生産量：465トン程度
- 水揚げ寄与見込：2027年6月期

Noeraa



デンマーク西部・ユトランド半島中部



Ⅲ . 2026年6月期 通期計画

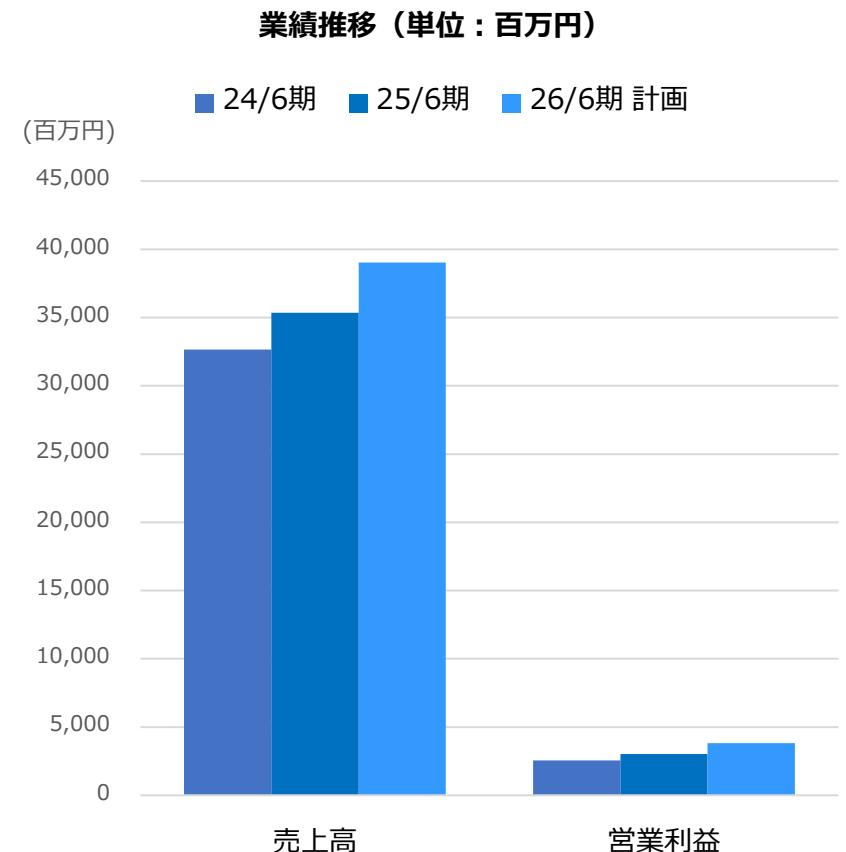


連結業績計画サマリー

連結売上高は前期比37億円増の390億円を計画。主な要因は、国内養殖量増による養殖事業売上の増、アジアでの市場規模拡大を背景にした海外卸売事業売上及び海外加工事業売上の増。
連結営業利益は前期比8億円増の38億円を計画。上記売上増に伴う増益。

(単位：百万円)	24/6期 実績	25/6期 実績	26/6期 計画	増減額	増減率 (%)
売上高	32,665	35,345	39,035	+3,689	+10.4
営業利益	2,548	3,021	3,813	+791	+26.2
経常利益	2,932	2,815	3,594	+779	+27.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,968	2,020	2,577	+556	+27.5
1株当たり当期 純利益（円）	42.03	41.35	52.37	+11.02	+26.6

※ 25/6期の経常利益には、為替差損222百万円（外貨建債権に関する為替差損など）が含まれています。
※ 2025年1月1日付で1：2の株式分割を、2025年7月1日付で1：3の株式分割を行っています。上記の1株当たり当期純利益は24/6期の期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合の金額を記載しています。



セグメント別

(単位：百万円)		2025/6期 実績 (a)	2026/6期 計画 (b)	(b-a)
売上高		35,345	39,035	+3,689
養殖		9,260	9,941	+681
国内加工		9,398	9,742	+344
海外加工		14,087	16,415	+2,328
海外卸売		11,044	12,969	+1,925
調整額		△8,445	△10,034	△1,589
セグメント利益		3,021	3,813	+791
養殖		1,238	1,273	+34
国内加工		1,177	1,510	+332
海外加工		1,040	1,256	+216
海外卸売		603	762	+158
調整額		△1,039	△989	+49

増減説明（セグメント利益）

養殖

対実績+34

- ・ 当期比で国内養殖量は8百トン、海外養殖量は6百トンの増産見込。
- ・ 国内養殖では、戦略的に海外販売を増やしていくために期末在庫が大きく増えて、販売数量は水揚げ量ほどには増えない見込み。
- ・ 欧州市場の影響を強く受ける海外養殖の販売価格は参考指標に基づき設定。現状のサーモン価格の状況を反映して当期実績より低め。

国内加工

対実績+332

- ・ 25.6期は価格転嫁が遅れ、近年では最も低い利益率だった。
- ・ 今年の漁獲高は低水準となる見通し。魚卵原料不足から、利益率は平年並みにまで回復すると見込む。

海外加工

対実績+216

- ・ サーモンハラス原料の調達難は継続する前提としている。
- ・ 青森サーモンの加工販売や新アイテムの拡大により国内向け売上が増加見込み。
- ・ 海外卸売売上の伸びに伴い、同事業向けの販売も増加見込み。

海外卸売

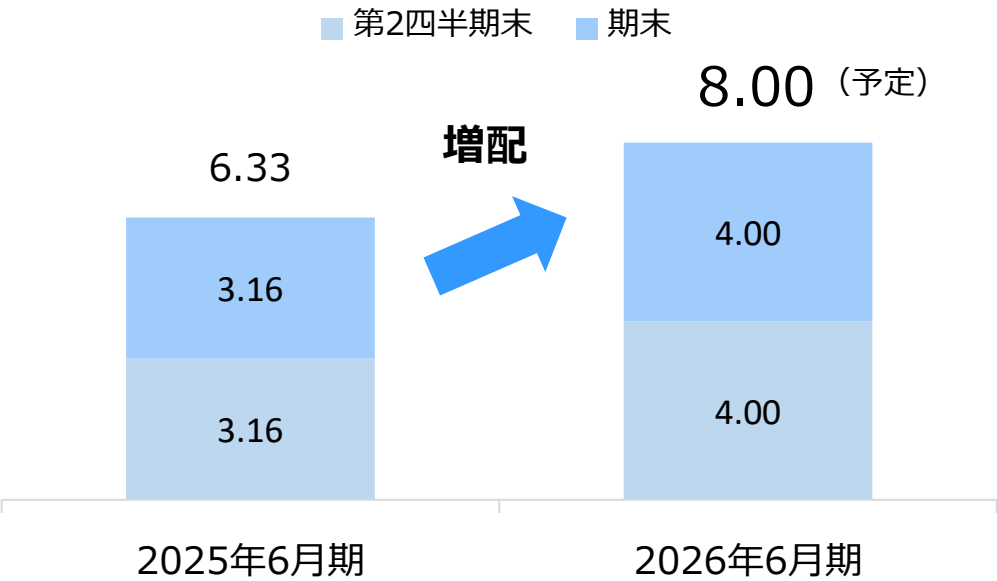
対実績+158

- ・ アジアの日本食マーケットの拡大傾向は継続すると想定。当事業もこれまでと同様のペースで成長を続けると見込む。

株主還元

配当	
配当方針	株主資本配当率 2 %以上を目途に 継続的な増配に努める

1株当たり配当金推移 (単位：円)



※25年1月1日付で 1：2 の株式分割を、25年7月1日付で 1：3 の株式分割を行っています。上記の1株当たり配当金額は25.6期の期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合の金額を記載しています。

株主優待制度	
目的	当社製品・事業の知名度向上 当社株式の投資魅力の向上
対象者	期末時点で1単元（100株）以上保有の株主様
優待品の内容	当社で養殖あるいは加工した食品
	100～299株 おおむね3,000円相当 
	300～599株 おおむね5,500円相当 
	600株以上 おおむね8,000円相当 

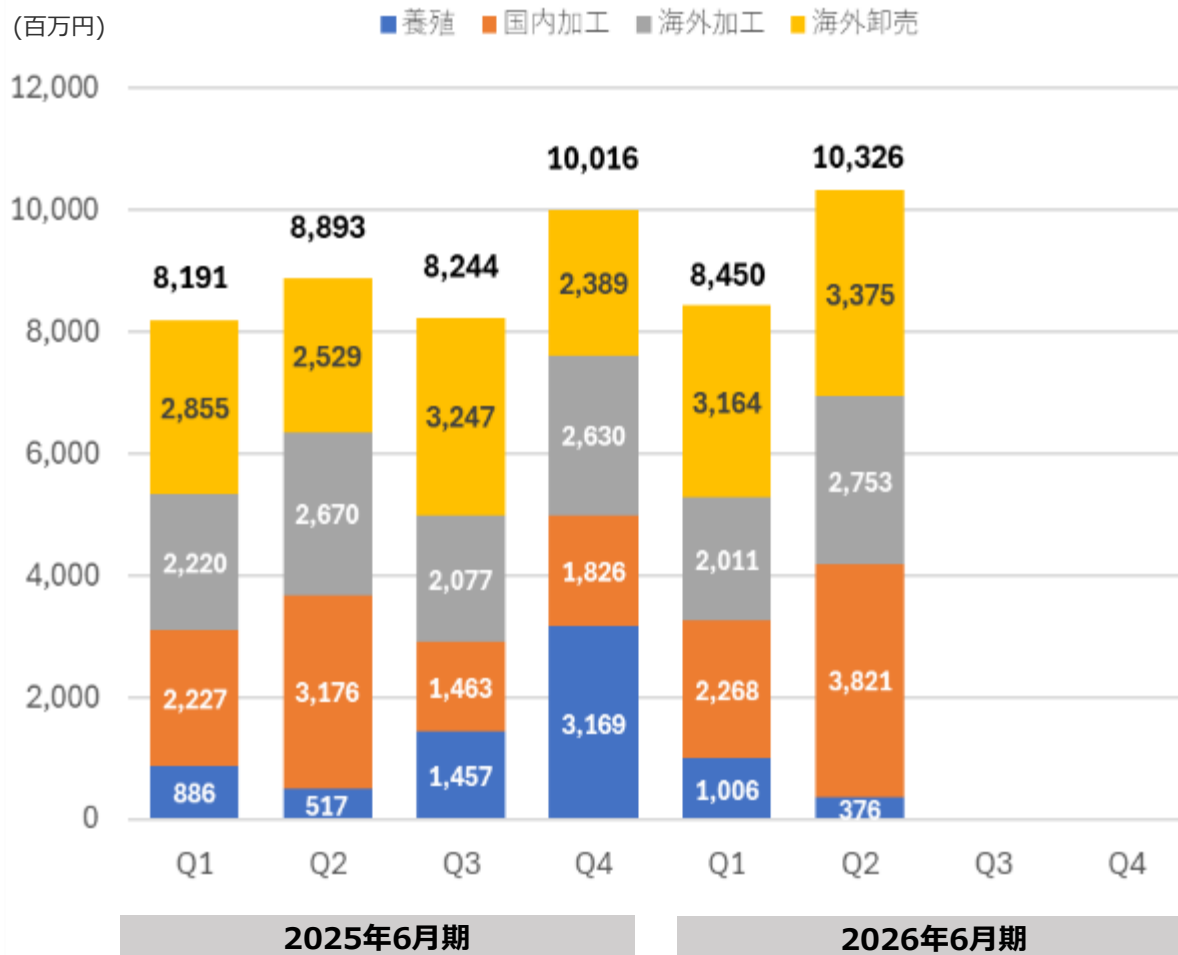
※上記の株式数は、2025年7月1日付の株式分割後の株式数を記載しています。
優待品の金額表記は、商品価格改訂後の金額に基づいて記載しています。

IV. 参考資料



四半期ごとの季節変動について（売上高）

ロ セグメント別 四半期推移（外部顧客への売上高）



＜各セグメントの主な季節要因＞

○養殖事業

水揚げ時期に売上が集中する傾向があります。水揚げ時期は国内養殖が4～7月（主に第4四半期）、デンマークの養殖が10～12月（第3四半期・決算日差異あり）になります。

○国内加工事業

取扱っている製品（いくら、筋子、数の子）の性格上、年末商戦（第2四半期）に売上が集中、年始はその反動で売上が落ち込むという傾向があります。

○海外加工事業

特に大きな季節要因はありません。

○海外卸売事業

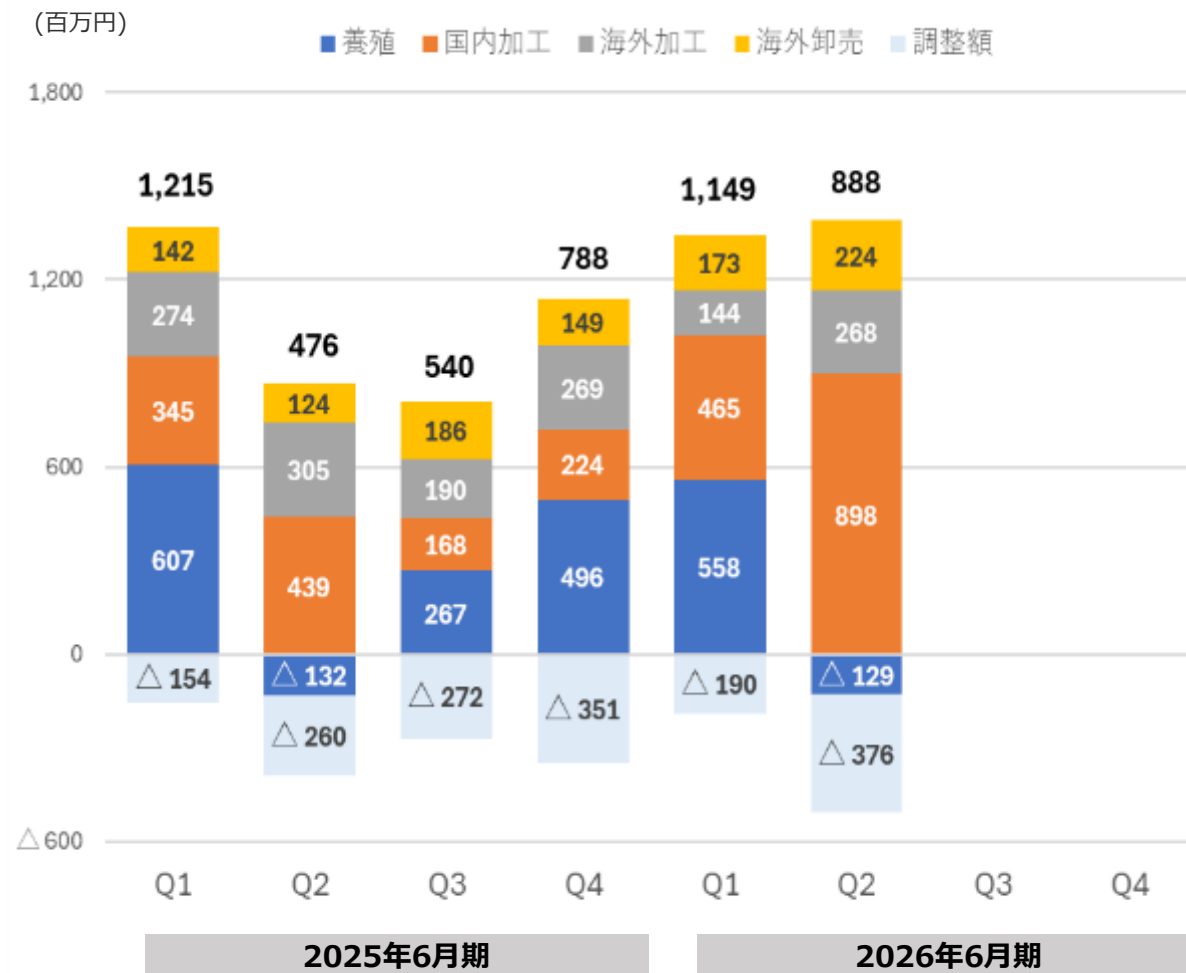
特に大きな季節要因はありません。

（注）

上記は例年における主な季節要因を説明したものです。
実際の業績は他の様々な要因によって変動することをご承知おき下さい。

四半期ごとの季節変動について（セグメント利益）

ロ セグメント別 四半期推移（セグメント利益）



<各セグメントの主な季節要因>

○養殖事業

Q1

国内・海外ともに水揚げ時期ではありませんが、デンマーク子会社（IFRS適用）の年間販売利益の見込額がQ1に一括で計上されます。

Q2

国内・海外ともに水揚げ時期ではないため、販売利益は少なくなる傾向があります。

Q3

デンマーク子会社の水揚げ時期にあたります。デンマーク子会社の販売利益の見積差額（実績値との差）はこの時期に多く計上される傾向があります。

Q4

国内養殖の水揚げ時期にあたります。国内養殖の販売利益はこの時期に多く計上される傾向があります。

○国内加工事業/海外加工事業/海外卸売事業

前頁参照

○調整額

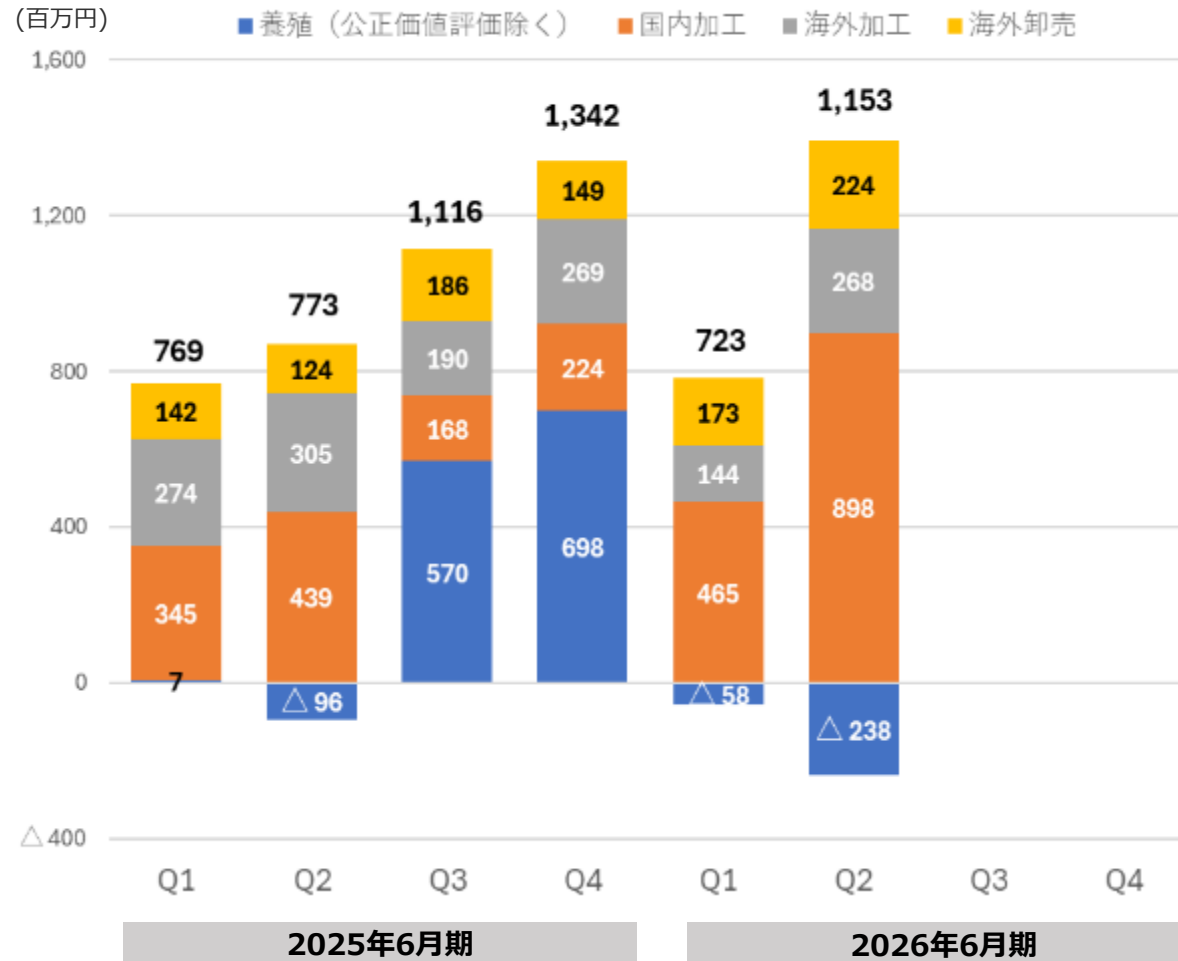
全社費用に加え、グループ内取引によって生じた棚卸資産未実現利益の控除を含みます。これはQ2に多く計上される傾向があります。

(注)

上記は例年における主な季節要因を説明したものです。実際の業績は他の様々な要因によって変動することをご承知おき下さい。

四半期ごとの季節変動について（IAS41号に基づく公正価値評価損益を除いた場合のイメージ）

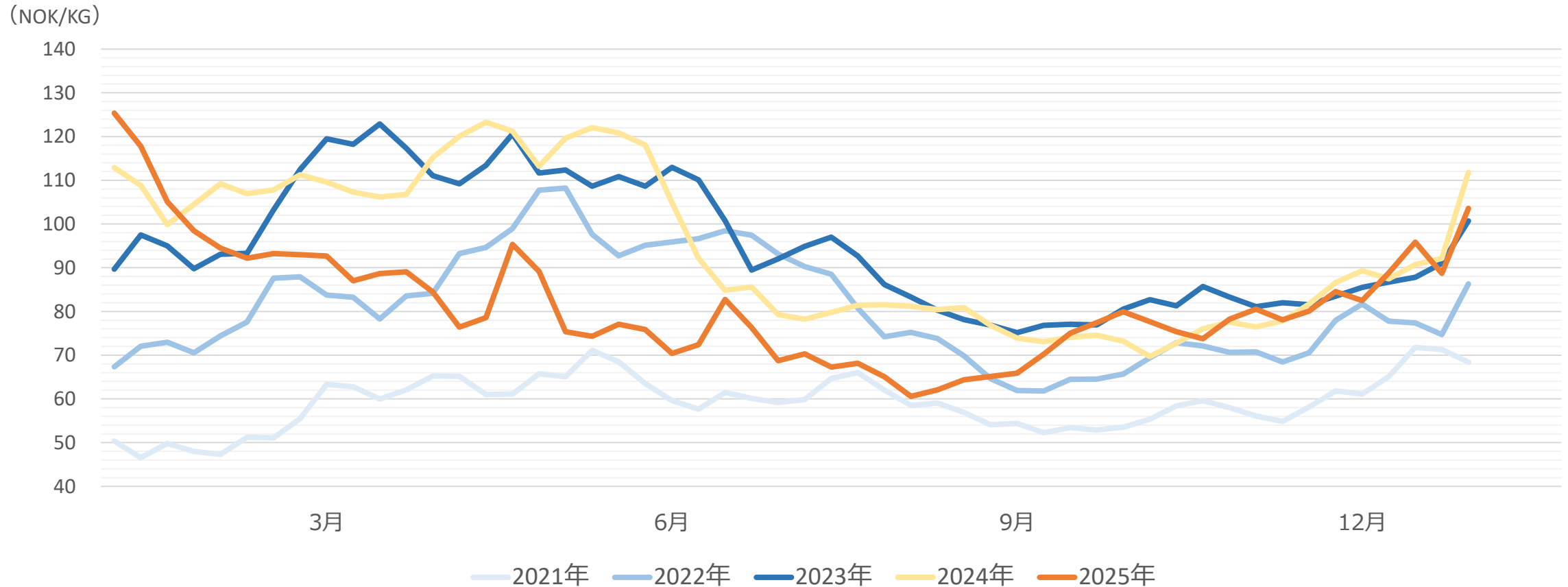
□ セグメント別 四半期推移（調整額控除前セグメント利益）



デンマーク子会社に適用されている「公正価値評価損益」の影響を除いた季節変動（日本の会計基準で処理した場合に近似する）は左記のとおりです。

(注)
セグメント利益の調整額（全社費用、棚卸資産に含まれる未実現利益の消去、など）を控除する前の数値です。

アトランティックサーモンのスポット価格 <SB(Statistics Norway)>



※ 上記グラフは、当社グループが養殖しているサーモントラウトとは異なる魚種であるアトランティックサーモンのスポット価格を表示しています。サーモントラウトにはこのような指標はないため、魚種は異なるものの、当社グループでは便宜的に当指標を予算策定や市場トレンドを測る際の参考指標として利用しています。なお、実際の取引価格は国内需給や輸送コストなど様々な要因に基づいて決定されます。あくまで当指標は一参考指標としてご覧いただく必要がある点にご留意ください。

＜出所：SB(Statistics Norway)の週次「輸出価格」。すべての輸出取引の平均のため、「厳密な“スポット（即時取引）だけ”よりは市場全体平均に近い特性。＞

豊洲市場のいくら平均価格推移



出展) 東京都中央卸売市場・市場統計情報

※ 相場のトレンドを概観する目的で掲載しています。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、経済動向、他社との競争状況、商品相場動向など潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化などの様々な要因により、実際の業績は言及又は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。



海の恵みを絶やすことなく
世界中の人々に届け続ける。

株式会社 **オカムラ食品工業**



青森サーモン®